

研究課題	南アルプスにおけるニホンジカによる高山植物への影響と保護対策および個体数管理に関する研究	
研究期間	平成22年度～24年度	
	評価項目	平均点
	1 研究課題選定の妥当性	4.2
	2 目標の達成度	2.8
	3 研究成果の活用及び実用化の可能性	3.4
	4 今後の発展性	3.8
	5 総合評点	3.6
<p>高山・亜高山帯におけるシカの植生被害の実態解明、絶滅危惧高山植物の組織培養を利用した増殖技術の確立、希少高山植物の遺伝的多様性の実態解明、シカの効率的な捕獲手法の検討、捕獲ジカの行動解明と飼育管理技術の検討等、ニホンジカの被害対策に関連した様々な研究課題について、一定の成果を得ることができた。</p> <p>シカ被害全般に係わる総合的な研究となったが、手を広げすぎて焦点が薄まってしまった感がある。特に、シカによる南アルプスの植生被害の状況がかなり明白になってきたが、シカそのものの分布、行動や個体群動態などシカの生態面に関しては依然として詳細が分からず、シカ被害の抜本的な対策を講じるまでには至らなかった。一方で、絶滅危惧高山植物の組織培養による栽培に成功したことは高く評価でき、種子の長期保存法の検討も含め、高山植物の増殖技術確立と遺伝的特性は、本研究テーマとは独立して継続的に実施していく必要性がある。</p> <p>まずはシカが増殖し、高山帯にまで侵入するようになった要因（温暖化？食物不足？行動変化？）の解明が先決かと思われるが、本県のシカの被害対策に関する調査・研究は始まったばかりと言え、より焦点を絞って継続的に実施していく必要性がある。</p>		